

Y08b 日時計としての方格規矩鏡の特性

波田野珠美、平井正則（福岡教育大学）、吉田二美（神戸大自然）、首藤次生（九州考古学会会員）

中国最古の変形コマ型日時計（キ儀）の文字盤と中国前漢末鑄造されたとされる青銅鏡の方格規矩鏡（TLV鏡）鏡背にある図案の比較から方格規矩鏡の日時計として用いられた可能性を検討した。その結果、鏡背の図案には当時の宇宙観を象徴的に表すものとしての天の支柱（Tを挟む八つの乳）、方位（四神獣、十二支、十二小乳、V文様）、天の雲（流雲文様）があり、一方、日時計としてはTL文様、鋸歯文様（ほぼ100刻に相当）が重要だと指摘できる。さらにここで提案するこれら一群の青銅鏡とコマ型日時計の合体は占いや統治者のシンボルとしての従来のある考えである象徴的な意味ばかりでなく、コマ型日時計特有の観測地での天の赤道面内に文字盤を設置するために鏡面が実用的に重要な用途をもつと考えられる。

こうして、中国の天文学史での「天の赤道」を土台とする天体運動の理解は東アジアの天文学史に特有な視点であると考えられる。ここでは文字盤が天の赤道面からずれて設置されたとき、日時計による時刻の測定誤差のシュミレーションによる逐次近似的な設置法や実際に青銅鏡（レプリカ）を使っての太陽と星を使った設置法を天体観測によって再現した結果を報告する。

1. 方格規矩鏡鏡背図案と中国最古の変形コマ型日時計（キ儀）の文字盤の比較。
2. 鏡背図案と当時（前漢末）の宇宙観。
3. 鏡の使用によるコマ型日時計の文字盤設置法の検討。
4. 鏡と日時計の合体による意味。